

駐屯地の沿革



佐賀県佐賀市から約13km東に位置する目達原駐屯地は、徳川幕府時代には鍋島藩の武芸鍛錬場として、また太平洋戦争（対米英並びに対蘭及び対中戦争）末期には大刀洗陸軍飛行学校目達原分校（飛行場）として使用されており、特攻機出撃の場でありました。

昭和29年、陸上自衛隊目達原駐屯地として創設され、以降は西部方面隊の兵站基地並びに航空基地として佐賀県に所在する駐屯地となっています。

- 昭和28年 7月 大刀洗陸軍飛行学校目達原分校敷地に起工
- 昭和28年 11月 先遣部隊移動
- 昭和29年 3月 目達原駐屯地開設、九州地区補給処、武器大隊本部
第307輸送中隊 福岡から部隊移動
- 昭和31年 3月 鳥栖分屯地開設（鳥栖燃料支処） 第4飛行隊 小月から部隊移動
- 昭和37年 3月 西部方面管制気象隊第1派遣隊新編
- 昭和39年 3月 武器大隊 西部方面武器隊へ改編
- 昭和43年 3月 西部方面ヘリコプター隊新編
- 昭和50年 3月 西部方面輸送隊新編 第307輸送中隊廃止
第321基地通信中隊新編 基地通信隊廃止
- 昭和55年 3月 西部方面輸送隊 健軍駐屯地へ部隊移動
- 平成 2年 3月 第3対戦車ヘリコプター隊新編
- 平成 6年 3月 西部方面武器隊隷下に第104不発弾処理隊新編
- 平成 9年 3月 映像伝送班目達原派遣隊暫定配置
- 平成10年 3月 九州地区補給処 九州補給処へ名称変更
- 平成14年 3月 映像伝送班目達原派遣隊 映像写真小隊空中伝送班へ名称変更
- 平成15年 3月 西部方面後方支援隊新編、西部方面武器隊廃止
九州補給処内部組織改編、第4飛行隊改編
- 平成20年 3月 城野支処廃止に伴い九州補給処改編
- 平成31年 3月 西部方面後方支援隊隷下に第105補給大隊及び第103弾薬大隊新編
- 令和 3年 3月 第3対戦車ヘリコプター 第1戦闘ヘリコプター隊へ改編
- 令和 8年 3月 九州補給処 西部方面隊から補給本部隷下へ改編